

成人T細胞白血病

成人T細胞白血病 せいじんていーさいぼうはつけつびょう

成人T細胞ウィルスによって起る急性、亜急性白血病で、「血液のがん」である。造血機能に障害が起り、白血球が異常増殖する病気である。レトロウィルスC型ウィルス粒子（HTVL-1）が免疫担当細胞であるリンパ球に感染し、感染後長期間（数十年）の潜伏期を経て、感染したリンパ球が増殖し、白血病または悪性リンパ腫として発症する。キャリアが発症するのは約2％とされている。九州、南西諸島、四国地方を中心に50歳台にみられる急性、亜急性白血病で、80％は発病後1年以内に死亡する。キャリアからウィルスを排除する手段はなく、有効な治療法も確立されていないので、感染予防が重要である。

<登録年月>

2005年07月
